

群青から版

発行所：東京都調布市調布ヶ丘1-5-1
学友会室
群青編集委員会
(C)群青編集委員会
2003

緊急総会の様子

サークル棟会計部屋から二〇二〇万円が盗まれるという事件を受け、去る四月十八日、学友会緊急総会が開かれました。

総会の大まかな流れと雰囲気をお伝えするため、総会に出席した群青委員のメモ等を元に当日の様子をここに記します。内容に関しては委員会内でチエツクはしていますが、間違いが含まれている可能性があります。記事の取り扱いは個人の責任でお願い致します。

総会開始前

普段の総会に比べ参加人数が多く、入り口が混雑していた。
黒板には「議案：平成一四年度サークル援助金の減額について」と書かれていた。議案は一つだけのようだ。
次第に人が増え、席がほとんど埋まった。かなり異例なことであった。

総会開始

学友会則の総会に関する細則第四条により、議長が学生課の人と院生数人の参加を許可した(ただし票は無し)。これも異例であった。

議案、平成一四年度サークル援助金の減額について(以下、議案)の審議が始まった。

開始直後、参加者から議案保留動議が提出された。理由は今回の事件について話し合わないことには予算の話はするべきではない(納得がいかない)ということであった。表決が行われ賛成多数で可決。

新たな議案と混乱

続いて新たな議案、二〇二〇万円盗難事件に対しての会計の責任のとり方について(以下、議案)が提出された。

内容は「会計委員会が今回の件に関して、どう責任をとるのか明らかにする」というものであった。

ここで議案を紙に起こす必要があるとのこと、執行より休会動議が提出された。時間は十五分が指定されたが、これについて反対意見が出されたため、かなりの時間審議を行うことになった。

再開。印刷された議案の議案書が配布された。

発案者より議案 に対する議案修正

動議が提出された修正(追加)内容は以下の通り。
(1)盗難事件について夜間主も参加可能な話し合いの場を設け、そこで決議を取ることにする。
(2)本会は閉会后、公聴会とする

この後会計に対する様々な意見・質問が出されたが、議案が混乱していった。あまり内容は無かった。

各自意見をまとめるために閉会した方がよいのではないか、ということでも参加者より閉会動議が提出された。これは否決された。

その後も混乱した状態が続いた。参加者より討論中の議案の議案保留動議が提出された。期限は無期限が指定された。

保留動議について様々な質問が飛び交った。質問が絶えず、保留動議の表決が取られることなく時間が過ぎた。

結局、保留動議を提出した参加者より動議の撤回動議が提出され可決された。

再び混乱した状態となった。

ここで執行が「五月の総会までもつれ込み予算が通らなくなった場合、全予算が停止する恐れがある。」と発言。

表決要求動議が提出され、可決された。これにより議案の表決が行われ、この議案は否決された。ここまでで、総会開始からおよそ三時間であった。

再び最初の議案へ

最初の議案へ移行。予算に関しての質問・意見がいくつが出された。

質問：群青は減っていないようだが、その理由は何か。

回答：群青とは話をしていないから。(会計委員会)

質問：調布祭の予算はいつ決まるのか。

回答：予算折衝で最終的な金額を決め五月の総会へ。(会計委員会)

質問：調布祭は実行可能か、また、中止された場合六九〇万円はどうなるのか。

回答：調布祭は行う。よってお金の移動は無い。(調布祭実行委員会)

質問：仮に被害が小額だった場合は弁済したのか。

回答：判断しかねる。しかし、現実的な予算案を作成するのが責務であるから、今回の議案を提出した。(会計委員会)

質問：お金を管理していた人に責任があるのだから、他の学生に影響の出る減額はするべきではないのではないか。

回答：額が大きいところから減らした。実際お金が無いので申し訳ない。(会計委員会)

質問：会計委員会に管理責任があるのだから弁済すべきではないか。

回答：委員会としての責任は緊縮予算での運営と再犯防止であると考え。(会計委員会)

質問：予算削減が議案であったが、会計委員会への責任追及の発言が多かったように思われた。そのためか参加者から議題から離れているという意見が出された。

質問：会計委員会室は危ないという話があったが、委員は安全だと思っていたのか。

回答：委員会全体の認識不足であり申し訳ないと思っている。(会計委員会)

この総会ではじめて明確な謝罪の言葉だった。

質問：大学からの支援はあるのか。

回答：目黒会と交渉中である。しかし予算が決定する五月までにそれを組み込むことは出来ない、今ある予算でやるしかない。(会計委員会)

質問：一七〇〇万で予算が組めると考えてよいのか。

回答：収入見積もりなので断言はできない。(会計委員会)

質問：十五年予算については話し合っていないか。

回答：今話し合っているのは十四年度の活動に基づく援助金についてである。しかし、繰越金は〇なので、十五年予算も同じようなやりくりをしながらはならない。(会計委員会)

閉会

執行から施設利用時間が終了していることを理由に表決動議が提出された。また、ここで可決しなかった場合は五月の総会で予算が通る目的が立たないので、サークル援助金が出なくなる」と発言。

表決動議は可決。続いて議案も可決された。

閉会動議が提出され可決。以上で緊急総会は終了した。18:30頃から開始して22:20頃までと、非常に長い総会であった。

総括

盗難事件が引き金となった今回の臨時総会でしたが、議案とそれに対する審議から外れてしまっている傾向があったため、肝心の予算の実行についての審議時間が少なくなってしまうことを残念に思います。

時間の割に充実していたとは言いがたい総会となってしまったのは、一つに総会を進める側と参加する側に大きな考え方の違いがあったためではないでしょうか？

審議を聞いていて、学友会(会計委員会)の側は議案を通すことのみを考えている一方、参加者の側は会計の責任について問う、という形に終始してしまっているように感じられました。また、今回の案件内容から事前に審議が紛糾するであろうということは容易に予見できた割には、あまりスムーズとは言えない議事進行(議長)に対し多くの人が疑問を抱いたことでしょう。

今回の総会での問題点

(1) 予備情報不足
今回の総会以前に盗難事件について詳細な情報を学友会が流さなかったため、学外のWeb掲示板以上の情報がほとんどありませんでした。そのため今回の総会が予算ではなく、盗難事件についてのものであると思っただけで参加している人が多数いたようです。さらに今回の総会ではじめて詳細な資料が配られたため、予算そっこのだけで会計委員会への追求が始まってしまいました。

(2) 会計委員会の対応の甘さ
どのような意見がでるか、そのときの対応は、ということをおそらくじめ委員会でまとめておく必要があったのではないのでしょうか？

それを怠ったため無用な混乱が起こり、会議が泥沼になってしまったように思われます。

(3) 議事運営における不手際
まず、この案の公表が遅すぎたのではないのでしょうか。すでに組まれている予算からの執行時の減額という内容であるのだから、当然対案を考える時間は必要です。しかし、総会での資料による配布では対案などを考える時間はありません。また、ここで議決しないと執行できないというのは、期日から見てと確かにそうではあるのですが著しく公平性を欠いています。

(4) 議長の不手際
予算案の審議に戻ったにもかかわらず、「お金の管理はどうなっていた？」など明らかに予算とは関係の無い質問が多数ありました。これは議長権限で止めるべきものではないでしょうか。そもそも議長が議事進行のルールを把握していないと思われる場面もありました。(補足 今回の臨時総会は予算の審議であり、今これだけお金があります。それをどう分けますか、ということを本来審議しなければならなかったはずです)

(5) 参加者の意見の脱線
参加者はこの議案に対し賛成又は反対、及びその理由を述べる、もしくは議案における不明瞭な点を発案者に問う、という形式に従うべきであったと思われれます。しかし、議案とずれた発言が多かったのは残念なことです。また一回及び補議案修正は参加者を混乱させる原因となりました。提案者にははじめからその議案を提出する意図があったように見受けられたので、そのような場合はあらかじめしっかりとした議案書を作ってくるべきでしょう。

まだまだこれから…

今回初めて総会に出席した人も多いと思います。今回の臨時総会では昨年度決まったものの修正が議案であり、混沌とした状態を経て、無理やりの議決となりました。

しかし、今年度の予算はまだ出来上がっていません。その折衝はこれから始まります。ぜひその場を有効に活用し、全員納得といわれないまでも、これならまあいいだろう、程度にはまとめいきたいと思います。

最終的には多数決を取るのが総会です。そこで大きな集団がいると、審議の結果がその集団の思う方向に持っていかれることがあります。そのようなことを防ぐためにも、正式な総会の日には休講であり、全員は参加可能な形となっているのですから、ぜひ総会に足を運んでください。そして、自分の一票を有効に活用していただきたいと思っています。それが無理ならば、せめて考えの同じ友人に票を託すべきです。議長委任では、決してあなたの考えを適切に反映するとは言えません。ましてや棄権などはしないでほしいと思います。

見解

あるサークル代表者の

今回の総会で援助金が(減額されたとはいえ)下りるのはありがたい。しかし、納得できないことが二点ある。

第一として、会計の責任の取り方が明らかにならなかったということ。

責任がある、と認めた会計がさて責任を取るといった段階になって、金銭的な弁償ができるかと言えばそうでもないだろう。もちろんそれができれば問題は無いが、学生なのである程度仕方ないことだろう。であればやはり謝罪をしっかりとらして、今後二度とこういう自体が起きないように対策を採ることが好ましいのではないかと。

総会中に会計委員が「責任をとるために予算を作成した」という発言をしたが、それは会計委員としての仕事であり責任のとり方では一切無い。確かに緊縮予算で運営することで学友会としての責任は果たせるかもしれない。会計委員は他の部門の予算からサークル援助金へ予算を割り振っただけで、責任を取ったと勘違いしているのではないかと。(少しは会計委員の予算も減っているのはあるが(彼らには俺らは被害者なんだ)ではなく、学友会いや、学生のお金を管理しているという責任をしっかりと理解してもらいたい。

第二として、今回の総会で『騙し』や『脅し』という風にとられてもおかしくないことが学友会から行われたということである。

『騙し』に該当しそうなのは、予算の書き方が不明瞭であったという点だ。通常なら収入見込みは支出見込みとは別に記載し収入と支出について別々に記載すべきだと思うのだが、議案書に記載されたのは単純に支出見込みみだけであった。明らかにおかしい。

『脅し』に該当するのは会期中に発せられた、この議案が議決されなければサークル援助金の支払いが行われません、というもの。支払いが遅れるというのなら話はわかるが、そうではない行われぬというのには明らかに不自然である。会期中に否決された場合は予算を組みなおすと会計委員は言ったのだが、学友会は全く支払わずにサークル援助金0で予算を組みなおす気だったのだろうか？ 万が一そうであれば学友会の体質を疑わざるを得ない。

これら点について何らかの対処がなされない限り、私としては援助金が支払われることを心から喜ぶことはできないだろう。

編集後記

急な発行となったため荒削りな部分が多々ありますがご容赦下さい。(いつものこと？)

今回の緊急総会は学外のWeb掲示板等でも注目されていたためか、参加者が非常に多い異例(それが本来あるべき姿なのだろう)のものとなりました。混乱はありましたが、五月の総会でも多くの人が関心を持ち参加することを切に願います。